

ごあいさつ

美馬市は、平成17年3月に脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村の4町村が合併して誕生したまちであり、水道事業についても旧町村で運営していた上水道事業と簡易水道事業を引き継いでおります。現在では1つの上水道事業(合併時に脇町水道事業、美馬町水道事業、穴吹町水道事業の3事業を統合)と13箇所の簡易水道事業によって、多くの市民の皆様へ水道水を供給しています。



これまでの水道は、公衆衛生の確保と生活環境の向上を図ることを目的として、市街地だけではなく、山間地についても集落単位で水道施設や管路を整備するなど、その普及に努めてきました。

これからも、安心・安全な水を安定的に供給し続けていけるよう努力してまいります。平成19年3月に策定された「四国のまほろば 美馬市(美馬市総合計画)」にもお示したとおり、今日の水道では、近年の少子高齢化や人口の減少等による使用量の減少、施設の老朽化による漏水対策、地震など災害時の安全性の確保等が大きな課題となっています。

そこで、水道部職員をはじめ関係者が一丸となって、これらの課題に対処していけるよう、今後の水道事業経営の指針となる「美馬市水道ビジョン」を策定いたしました。

ここでは、今一度、美馬市水道の現状を見つめ直すとともに、美馬市水道が目指すべき将来像や目標を掲げ、さらにその目標の実現に向けた取組をまとめています。

今後は、水道利用者である市民の皆様のご理解とご協力を得ながら、これらの具体化を図り、本ビジョンの将来像として掲げた「未来にわたって、安心な水を安定してお届けする水道」の実現を目指してまいります。

最後になりましたが、本ビジョンの策定にあたり、パブリックコメントを通じて、貴重なご意見をいただきました市民の皆様へ心から感謝申し上げます。

平成24年3月 美馬市長 牧田 久



美馬市水道ビジョン



目 次

1	はじめに	1
2	美馬市水道の概況	2
	2-1 美馬市の概況.....	2
	2-2 美馬市水道の概要.....	6
	2-3 水道施設の概要.....	10
3	美馬市水道の現状分析	21
	3-1 安全な水、快適な水が供給されているか.....	21
	3-2 いつでも使えるように供給されているか.....	25
	3-3 将来も変わらず安定した事業運営ができるようになっているか.....	32
	3-4 環境への影響を低減しているか.....	40
	3-5 国際協力に貢献しているか.....	42
4	美馬市水道の将来見通し	43
	4-1 水需給の将来見通し.....	43
	4-2 更新需要の将来見通し.....	45
	4-3 財政収支の将来見通し.....	48

5	美馬市水道の将来像と目標	50
5-1	将来像.....	50
5-2	基本目標.....	50
5-3	施策体系.....	52
6	目標の実現に向けた取組	54
6-1	安心・安全な給水の確保.....	54
6-2	災害対策の充実.....	57
6-3	水道運営基盤の強化.....	61
6-4	給水サービスの充実.....	65
6-5	環境対策の推進と国際貢献.....	68
7	美馬市水道ビジョンの推進	72
7-1	美馬市水道ビジョンのフォローアップ.....	72
7-2	実施スケジュール.....	73
8	用語解説	75

1 はじめに

美馬市は、平成 17 年 3 月 1 日に旧美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村の 3 町 1 村が合併して誕生したまちであり、現在では、1 つの上水道事業*と 13 箇所の簡易水道事業*、さらには 22 箇所の飲料水供給施設*によって、水道水を供給しています。このうち、上水道事業と西部・別所簡易水道は市街地に位置しており、その他、多くの簡易水道事業と飲料水供給施設は、規模が小さく、山間部に広く点在しています。

上水道事業の経営主体は美馬市水道部となっており、地方公営企業*法の適用のもと、水道利用者からの料金収入によって、水道事業の運営や水道施設の運転・維持管理を行っています。簡易水道事業は、現在、地方公営企業法の適用を受けておらず、また、一般会計からの補てんがなければ運営できない面もあるため、その経営主体は市長部局（特別会計）となっています。ただし、水道料金の徴収業務や水道施設の運転・維持管理については、美馬市水道部（脇町、美馬、穴吹地区）と木屋平総合支所（木屋平地区）で行っています。また、飲料水供給施設については、地元の水道組合が運営管理しています。

平成 19 年 3 月に策定された「四国のまほろば 美馬市（美馬市総合計画）」では、上水道事業及び簡易水道事業の課題として、『水需要量の減少』、『施設や管路の老朽化』、『地震など災害時の安定性確保』などが挙げられており、今後は、『水道施設の計画的な更新や耐震化など、災害に強い施設整備を進めるとともに、水道事業の経営計画の確立、経営体質の強化を図っていく必要がある』とされています。

厚生労働省は、全国の多くの水道事業者がこのような課題に直面していることを鑑み、水道事業の目指すべき方向、長期的な施策目標、施策の重点取組項目などを示した「水道ビジョン（平成 16 年 6 月策定、平成 20 年 7 月改訂）」を公表しています。さらに同省は、水道事業者が自らビジョンを策定することができるように、「地域水道ビジョン作成の手引き」（平成 17 年 10 月作成）をとりまとめています。

この他、厚生労働省は、一般的に経営基盤（財務・技術基盤）が脆弱である簡易水道事業の統合を重点的に促進するため、平成 28 年度末までに簡易水道事業を上水道事業に統合するように補助制度の見直しを行っています。

美馬市においても、このような水道を取り巻く状況を考慮して、地域の特性を踏まえつつ、未来にわたって安心・安全な水を安定的かつ持続的に給水するための今後の水道事業経営の指針となる『美馬市水道ビジョン』を策定しました。

なお、本水道ビジョンの目標年度は平成 34 年度としており、計画期間は平成 24 年度から 34 年度までの 11 年間としています。

* 印を付した語句の意味については、「8 用語解説」をご参照下さい。

2 美馬市水道の概況

2-1 美馬市の概況

2-1-1 美馬市の自然的条件

(1) 位置・地勢

美馬市は、2005（平成 17）年 3 月 1 日に旧美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併してできた、豊かな自然と数多くの文化財が残る歴史情緒あふれるまちです。

徳島県の西部（県都徳島市から約 40km）に位置し、西側が三好市、美馬郡つるぎ町と、北側が阿讃山脈の山頂で香川県と、東側が阿波市、吉野川市、名西郡神山町と、南側が那賀郡那賀町と接しています。

市のほぼ中央を東西に四国三郎「吉野川」が流れ、穴吹川など幾多の川が吉野川に流れ込み、その沿岸の平野部が主な可住地となっています。北側の阿讃山脈、南側の剣山をはじめ、ほとんどが山地で、総面積の約 8 割が森林となっており、清らかな水と豊かな緑に囲まれた自然の美しい地域です。



(2) 気候・災害

本地域は、瀬戸内型気候に属し、年間を通じて比較的温暖な気候です。しかし、徳島市と比較すると若干低くなっており、特に山間部においては寒暖の差が大きくなっています。

また、本地域では、「東南海・南海地震に関わる防災対策特別措置法」において対策推進地域（震度が6弱以上となる地域など）に指定されており、この他、美馬市防災マップにも示されているとおり、吉野川の氾濫による洪水や土砂災害の危険がある地域があります。

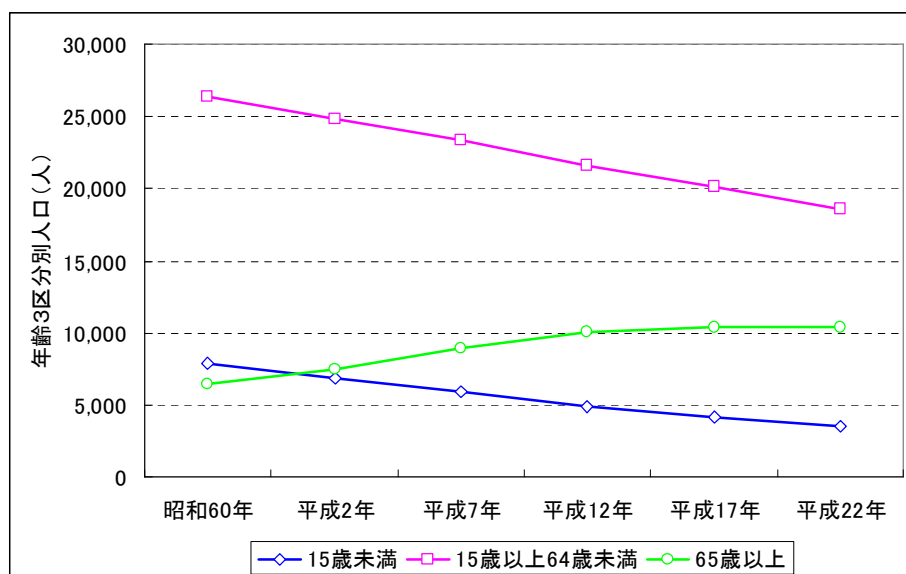
2-1-2 美馬市の社会的条件

(1) 人口・世帯

平成22年10月1日時点の国勢調査人口は、32,484人で、平成17年10月1日時点の34,565人から6.0%の減となっており、本市の人口は減少しつづけています。

一方、平成22年10月1日時点の国勢調査世帯数は11,648世帯であり、平成17年10月1日時点の11,902世帯から2.1%の減となっています。

また、年齢3区分別人口の推移を見ると、65歳以上の人口推移が平成12年からほぼ横這いであるのに対して、65歳未満の人口は減少しており、今後も、より一層の高齢化が進むと予想されます。



参考資料：国勢調査

図 2-1 年齢3区分別人口の推移

(2) 土地利用等

美馬市の総面積は、367.38km²で、これは徳島県全体（4,145.69km²）の約8.9%にあたります。また、このうちの約8割が山地、2割が低地であり、宅地、農地（田・畑）、工場、公共施設等の土地利用は山麓から低地部に集中しています。

(3) 産業

①農業

平成 17 年農林業センサスによる農家総数は 3,314 戸（専業 477 戸、兼業 2,837 戸）で、経営耕地面積は 1,122ha（田 716ha、畑 283ha、樹園地 123ha）であり、1 戸当たりの平均耕地面積は 33.8a の経営規模となっており、県平均の 53.7 a を大きく下回っています。

農業粗生産額は、75.5 億円で、耕種 33.4%、畜産 66.6%の内訳となっています。

平成 12 年と比較すると、農家数で 8.2%、経営耕地面積で 30%の減少となっており、効率的かつ安定的な農業経営の確立が課題となっています。

表 2-1 農業の推移

区分	平成12年	平成17年	増減	増減率
農家数(戸)	3,610	3,314	△ 296	△ 8.2
経営耕地面積(ha)	1,607	1,122	△ 485	△ 30.2
農業粗生産額(千万円)	838	755	△ 83	△ 9.9

参考資料:2000、2005世界農林業センサス

②林業

平成 17 年農林業センサスによる本市の森林面積は、29,174ha で市全体の 8 割を占めています。一方、林家数は、1,575 戸で、平成 12 年と比較すると 9%の減となっているうえ、ほとんどが小規模所有者で、財産保有としての形態が多く、労働力不足や採算性の低さから、間伐等森林管理の遅れが目立っています。

一方、本市の地形や河川、居住の状況からみると、森林のもつ水源涵養機能や環境保全機能の保持は住民生活と密着しており、今後とも育成途上にある人工林等の整備と林道等生産基盤整備の継続的な取り組みが課題となっています。

表 2-2 林業の推移

区分	平成12年	平成17年	増減	増減率
林野面積(ha)	29,116	29,174	58	0.2
林家数(戸)	1,726	1,575	△ 151	△ 8.7
保有山林面積(ha)	8,836	8,068	△ 768	△ 8.7

参考資料:2000、2005世界農林業センサス

③工業

工業の状況は平成 21 年の調査で、4 名以上の従業員を有する事業所数が 58 事業所となっており、業種構成は、窯業・土石製品と衣料・繊維製品等がそれぞれ 15.5%、木材・家具と食料・飲料等がそれぞれ 12.1%となっています。

また、本市の工業は、事業所全体の 8 割以上が従業者数 30 人未満の小規模零細企業で

あり、従業員一人当たりの製造品出荷額等は2,500万円程度であるなど低生産性等構造的、体質的に多くの問題を抱えており、経営基盤の強化策等が課題となっています。

表 2-3 工業の推移

区分	平成16年	平成21年	増減	増減率
事業所数(所)	65	58	△ 7	△ 10.8
従業者数(人)	1,582	1,446	△ 136	△ 8.6
製造品出荷額(千万円)	3,787	3,671	△ 116	△ 3.1

参考資料:工業統計 各12月31日現在(従業員4名以上の事業所)

④商業

商店数は平成19年の調査で、卸売業54店、小売業447店となっており、小売業の業種構成は、飲食料品が38.0%、その他(医薬品・化粧品・燃料等)が34.9%、家具・什器・機械器具が14.6%、繊維・衣料・身の回り品が12.5%となっています。

事業所数では、平成14年調査と比較すると卸売業が7%、小売業では17%の減少となっています。

特に、旧来の商店街は郊外型大型店舗等の進出の影響を受けるとともに、経営者の高齢化、後継者の不在等で廃業する店舗も多くなっており、多様化する消費者ニーズへの的確な対応策が課題となっています。

表 2-4 商業の推移

区分		平成14年	平成19年	増減	増減率
商店数 (店)	卸売業	58	54	△ 4	△ 6.9
	小売業	537	447	△ 90	△ 16.8
従業者数 (人)	卸売業	360	364	4	1.1
	小売業	2,334	2,101	△ 233	△ 10.0
年間商品販売額 (千万円)	卸売業	1,586	896	△ 690	△ 43.5
	小売業	3,174	2,957	△ 217	△ 6.8

参考資料:徳島県の商業

(4) 交通

本市を通じる主要な道路交通には、徳島自動車道(市内2インターチェンジ)、国道192号、193号、438号及び492号、主要地方道美馬・塩江線、鳴門・池田線があります。

また、主要交通機関として、JR徳島線と路線バス1路線2系統が運行されており、その他、平成23年6月1日よりデマンドバスの実証運行を開始しています。

2-2 美馬市水道の概要

2-2-1 給水区域

美馬市では、現在、1つの上水道事業と13箇所の簡易水道事業、さらには22箇所の飲料水供給施設を有しています。

このうち、上水道事業と西部・別所簡易水道は市街地に位置しており、その他、多くの簡易水道事業と飲料水供給施設は、規模が小さく、山間部に広く点在しています。

表 2-5 水道事業(上水道・簡易水道)一覧

種別	地区	名称	計画給水人口 (人)	計画一日最大 給水量 (m ³ /日)	備考
上水道 事業	美馬 脇町 穴吹	美馬市 水道事業	26,700	19,613	市町村合併に伴い美馬町水道事業、脇町水道事業、穴吹町水道事業を統合して創設
簡易 水道事業	美馬	切久保	241	192	
	脇町	西部・別所	4,000	1,800	
		清水	250	100	
		中ノ谷	680	270	
		小島	670	210	
	穴吹	古宮	500	131	
		岩屋	350	53	
		南部	150	38	
		神明	700	420	
	木屋平	川井	200	82	
		三協	350	105	
		木屋平	500	100	
		川上	160	35	

表 2-6 飲料水供給施設一覧

地区	名称	計画給水人口 (人)	地区	名称	計画給水人口 (人)
美馬	池ノ浦地区	72	木屋平	内川地地区	65
脇町	中八地区	60		貢地区	52
	相栗地区	45		市初地区	51
穴吹	新山地区	60		三ツ木地区	60
	宝地区	100		竹屋敷地区	52
	空野地区	50		櫟木地区	90
	大内地区	50		竹尾・堂久保地区	96
	大平地区	100		今丸地区	55
	西谷地区	70		大北地区	90
				檜原地区	78
				太合地区	55
				南張地区	35
				南張上地区	35

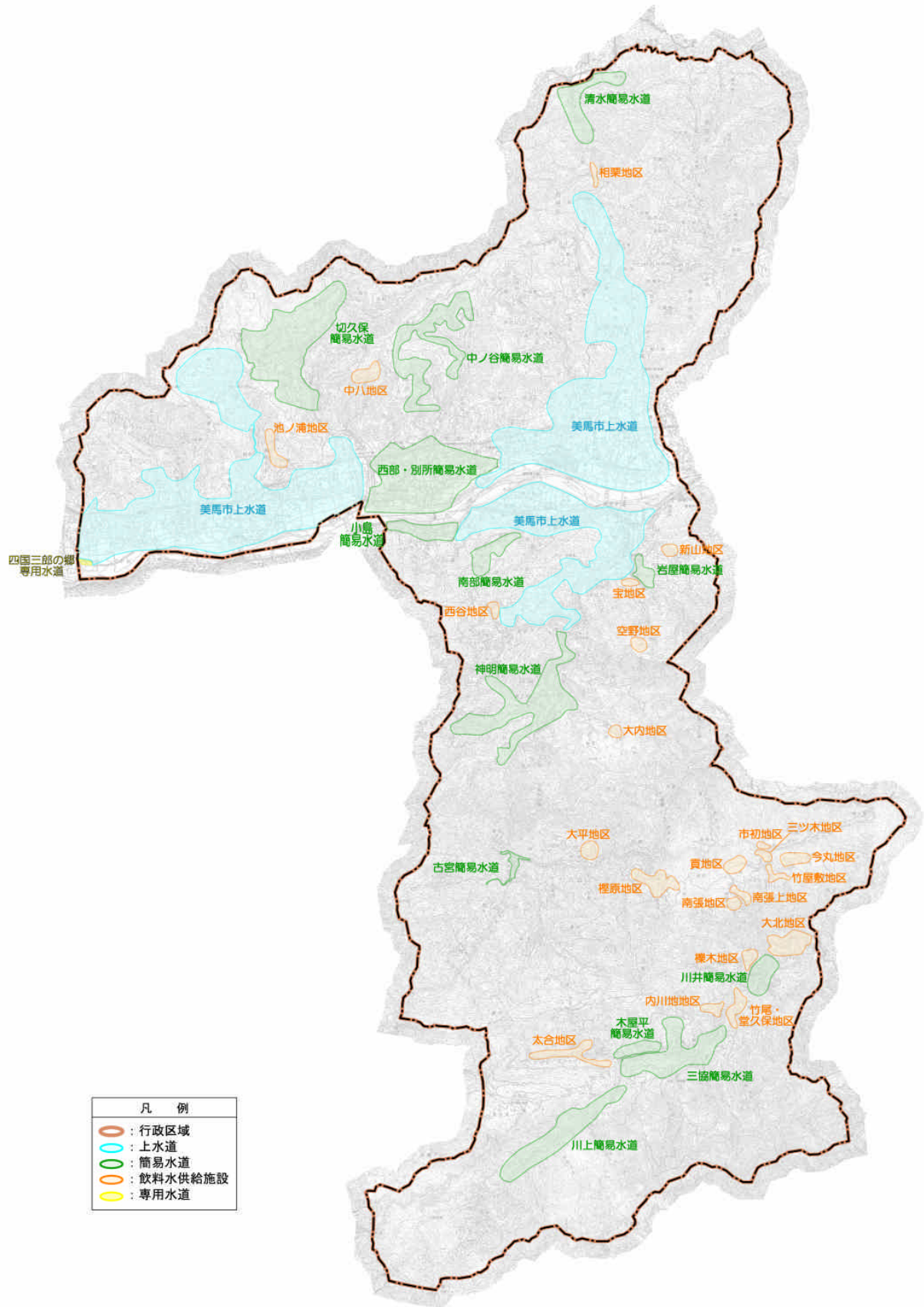


図 2-2 水道事業等位置図

2-2-2 水道事業の沿革

(1) 上水道

現在の上下水道事業は、平成 17 年 3 月 1 日の市町村合併に伴い、美馬町水道事業、脇町水道事業及び穴吹町水道事業が統合されて創設されたものです。

このうち、最も早く上水道事業を創設したのは、脇町水道事業（創設事業：計画給水人口 5,350 人、計画給水量 963m³/日）であり、昭和 32 年 4 月から給水を開始しています。その後、給水区域の拡張や人口・給水量の増加などに伴い、合併までに 9 回の拡張事業（第 9 期拡張事業：計画給水人口 13,000 人、計画給水量 10,530m³/日）を行っています。

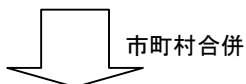
次いで、上水道事業を創設したのは、穴吹町水道事業（創設事業：計画給水人口 5,100 人、計画給水量 765m³/日）であり、昭和 38 年 12 月から給水を開始しています。その後、給水区域の拡張や人口・給水量の増加などに伴い、合併までに 3 回の拡張事業（第 3 期拡張事業：計画給水人口 6,400 人、計画給水量 3,340.8m³/日）を行っています。

残る、美馬町水道事業（創設事業：計画給水人口 9,000 人、計画給水量 4,050m³/日）は、昭和 45 年 4 月から給水を開始しており、その後、給水区域の拡張や人口・給水量の増加などに伴い、合併までに 3 回の拡張事業（第 3 期拡張事業：計画給水人口 8,960 人、計画給水量 6,320m³/日）を行っています。

その後、平成 17 年 3 月 1 日の市町村合併に伴い、美馬市水道事業を創設（計画給水人口 28,360 人、計画給水量 20,190.8m³/日）し、さらに、給水区域を拡張（助松飲料水供給施設の上水道への統合）する第 1 期拡張事業（計画給水人口 26,700 人、計画給水量 19,613m³/日）を実施し、現在に至っています。

表 2-7 上水道事業の沿革

事業主体	給水開始年月	事業名称	認可年月	計画給水人口 (人)	計画一日最大 給水量 (m ³ /日)
脇町水道事業	S32.4	創設事業	S28.11	5,350	963
		第 9 期拡張事業	H12.10	13,000	10,530
穴吹町水道事業	S38.12	創設事業	S36.12	5,100	765
		第 3 期拡張事業	H10.3	6,400	3,340.8
美馬町水道事業	S45.4	創設事業	S45.4	9,000	4,050
		第 3 期拡張事業	H14.3	8,960	6,320



事業主体	給水開始年月	事業名称	認可年月	計画給水人口 (人)	計画一日最大 給水量 (m ³ /日)
美馬市水道事業	H17.3	創設事業	H17.3	28,360	20,190.8
		第 1 期拡張事業	H20.3	26,700	19,613

(2) 簡易水道

美馬市には、美馬地区に 1 箇所、脇町地区に 3 箇所、穴吹地区に 5 箇所、木屋平地区に 4 箇所の合計 13 箇所の簡易水道事業があります。給水開始年代で分類すると、昭和 30 年代に給水を開始した簡易水道事業が 4 箇所、昭和 40 年代が 4 箇所、昭和 50 年代が 3 箇所、平成年代が 2 箇所となっています。

このうち、最も古いものは、昭和 30 年 4 月に給水を開始した小島簡易水道事業であり、最も新しいものは、平成 23 年 6 月に給水を開始した切久保簡易水道事業となっています。

なお、美馬、脇町、穴吹地区にある 9 つの簡易水道事業は、将来的に上水道事業（美馬市水道事業）に統合し、木屋平地区にある 4 つの簡易水道事業は、木屋平簡易水道事業（創設）に統合することを計画しています。

表 2-8 簡易水道事業の沿革

地区	事業名称	給水開始年月	簡易水道事業統合計画
美馬	切久保	H23.6	美馬市水道事業 に統合
脇町	西部・別所	S40.4	
	清水	S41.4	
	中ノ谷	S47.4	
穴吹	小島	S30.4	
	古宮	S31.8	
	岩屋	S38.4	
	南部	S50.6	
	神明	H11.4	
木屋平	川井	S33.4	木屋平簡易水道事業(創設) に統合
	三協	S49.4	
	木屋平	S52.4	
	川上	S58.4	

2-3 水道施設の概要

2-3-1 上水道事業

(1) 水源・浄水場

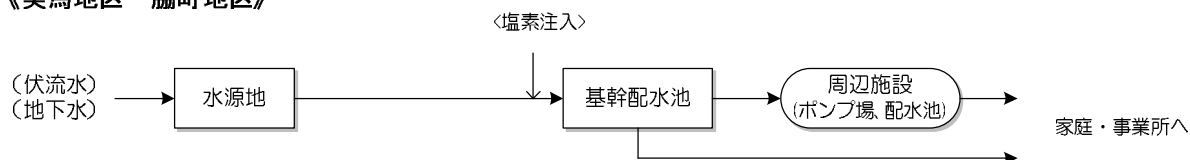
上水道については、合併前の給水区域を基本として、水道水の供給を行っています。美馬地区では、一級河川吉野川の北岸に位置する3箇所の水源から取水しています。また、脇町地区では、一級河川吉野川の北岸に位置する6箇所の水源と曾江谷川の沿岸に位置する水源から取水しています。

さらに、穴吹地区では、一級河川吉野川の南岸に位置する水源から取水しています。取水された水は、塩素滅菌処理を行った後、各家庭や事業所に配られています。

表 2-9 水源・浄水場一覧(上水道)

地区	水源の名称	水源の種類	浄水処理方法	供給能力
美馬	中央水源	伏流水(浅井戸)	塩素滅菌のみ	6,735 m ³ /日
	西部第1水源	地下水(浅井戸)		
	西部第2水源	地下水(浅井戸)		
脇町	第1水源	伏流水(浅井戸)	塩素滅菌のみ	9,180 m ³ /日
	第3水源	地下水(深井戸)		
	第4水源	伏流水(浅井戸)		
	第7水源	伏流水(浅井戸)		
	第8水源	伏流水(浅井戸)		
	第9水源	伏流水(浅井戸)		
穴吹	穴吹水源	地下水(浅井戸)	塩素滅菌のみ	3,698 m ³ /日

《美馬地区・脇町地区》



《穴吹地区》

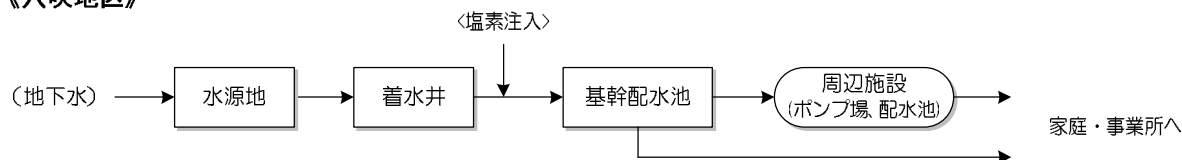


図 2-3 浄水フロー(概略)

(2) 配水池

給水区域内における水需要の分布や地形を考慮して、美馬地区と脇町地区ではそれぞれ17箇所、穴吹地区では19箇所の配水池※を設置しており、その総容量は11,961m³となっています。

配水池は、一定している配水池への流入量と時間変動する給水量との差を調整する他、配水池より上流側の事故発生時にも一定時間の給水を維持するための役割を有しています。

表 2-10 配水池一覧

美馬地区			脇町地区			穴吹地区		
名称	構造	容量(m ³)	名称	構造	容量(m ³)	名称	構造	容量(m ³)
中央高区配水池	SUS製	1,000	上野配水池	RC造	600	尾山配水池	PC造	1,200
上横尾配水池	SUS製	60		PC造	1,200	尾山中配水池	RC造	13.1
中央(低区)配水池	PC造	720	古作配水池	PC造	1,800	尾山上配水池	RC造	400
中央(滝ノ宮)配水池	SUS製	750		PC造	400	三島配水池	RC造	90
西部配水池	SUS製	700	大木原配水池	PC造	1,000	初草配水池	RC造	250
猿坂配水池	RC造	33	段配水池	RC造	50	平野配水池	RC造	33
東部高区配水池	RC造	50	加重配水池	RC造	28	平野上配水池	RC造	60
東部配水池	RC造	120	八久保配水池	RC造	24	奈良坂配水池	RC造	7
東部低区配水池	RC造	100	貞安配水池	RC造	20	馬内配水池	RC造	55
吉水配水池	RC造	30	田上配水池	RC造	100	松生配水池	RC造	37.8
西部高区東配水池	RC造	70	西俣配水池	RC造	120	中野配水池	RC造	11
西部高区西配水池	SUS製	150	夏子配水池	RC造	21		RC造	16.6
白地配水池	RC造	29.5	藤川配水池	RC造	26	西山配水池	RC造	48
中村配水池	RC造	39.7	田尾配水池	RC造	24	中野宮配水池	RC造	43.4
芹佐古配水池	RC造	56.0	黒北配水池	RC造	50	成戸配水池	RC造	10
立見山配水池	RC造	3.3	上合配水池	RC造	25	成戸上配水池	RC造	78
宮北配水池	SUS製	100	美村配水池	RC造	5	東成戸配水池	RC造	17.5
						東成戸上配水池	FRP製	2.83
						市ノ下配水池	RC造	82.5
美馬地区合計容量		4,012	脇町地区合計容量		5,493	穴吹地区合計容量		2,456
							総容量	11,961

(3) 管路

上水道事業の平成22年度末の管路延長は、約291kmであり、その内訳は導水管※が約0.3km、送水管※が約38.2km、配水管※が約252.4kmとなっています。

管種別の内訳を見ると、導水管は全てダクタイル鋳鉄管※であり、送水管では、ダクタイル鋳鉄管が全体の6割弱、硬質塩化ビニル管が全体の3割強を占めています。配水管では、ダクタイル鋳鉄管が全体の2割強、硬質塩化ビニル管が全体の7割弱を占めています。

また、ダクタイル鋳鉄管のうち、離脱防止機能を備えた耐震型継手※管は全体の約2%、延長にして約5.8kmが布設されています。

さらに、配水管の口径別内訳を見ると、美馬市では、給水人口が少なくかつ配水区域が細かく分割されていることもあって、φ100mm以下の小口径管の割合が高くなっています。

表 2-11 管路延長[上水道]

管種	延長(m)				構成比率(%)			
	導水管	送水管	配水管	合計	導水管	送水管	配水管	合計
鑄鉄管	0	288	0	288	0.0	0.8	0.0	0.1
ダクタイル鑄鉄管(耐震型継手)	42	1,385	4,363	5,790	12.3	3.6	1.7	2.0
ダクタイル鑄鉄管(上記以外)	300	22,015	59,302	81,617	87.7	57.7	23.5	28.1
鋼管	0	0	1,098	1,098	0.0	0.0	0.4	0.4
硬質塩化ビニル管	0	12,348	169,380	181,728	0.0	32.3	67.1	62.5
ポリエチレン管	0	2,148	18,269	20,417	0.0	5.6	7.2	7.0
ステンレス管	0	0	12	12	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	342	38,184	252,424	290,950	100	100	100	100

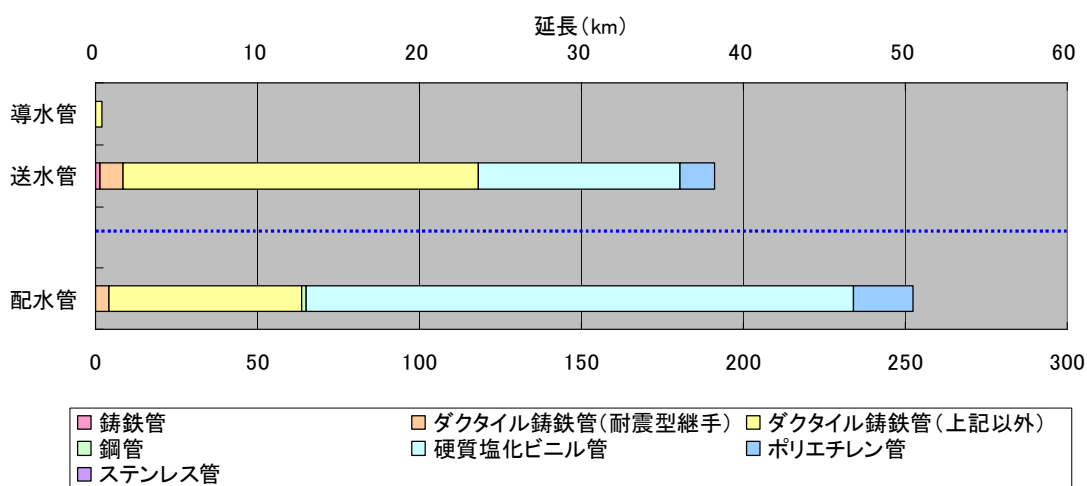


図 2-4 管種別延長[上水道]

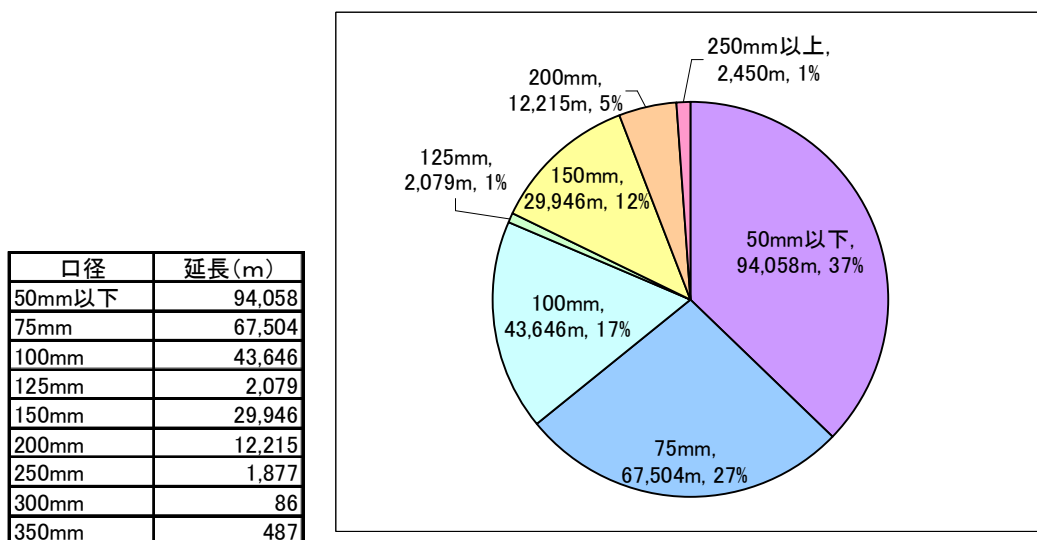


図 2-5 口径別配水管延長[上水道]

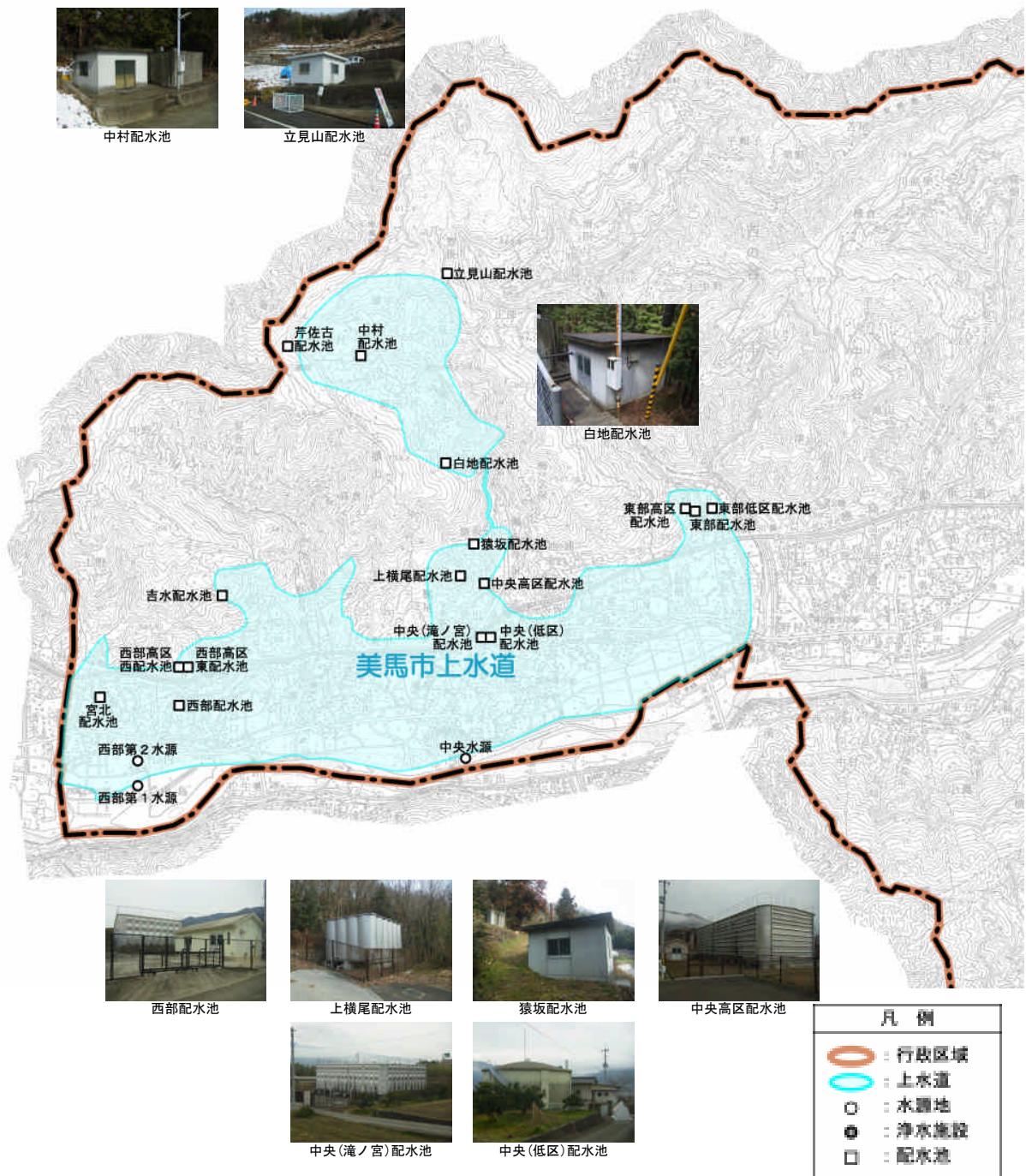


図 2-6 水道施設の位置[上水道:美馬地区]



図 2-7 水道施設の位置[上水道:脇町、穴吹地区]

2-3-2 簡易水道事業

(1) 水源・浄水場

美馬地区、脇町地区、穴吹地区、木屋平地区のあわせて13箇所ある簡易水道では、合計で17箇所の水源を有しており、それぞれ適切な浄水処理を行った後、それぞれの地域に安全で良質な水道水を供給しています。

表 2-12 水源一覧(簡易水道)

地区	事業名称	水源の名称	水源の種類	浄水処理方法	供給能力
美馬	切久保	湧水	三頭水源	塩素滅菌のみ	192 m ³ /日
脇町	西部・別所	西部水源	地下水(浅井戸)	塩素滅菌のみ	1,800 m ³ /日
		新西部水源			
		岩倉水源			
	清水	清水水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	100 m ³ /日
中ノ谷	中ノ谷水源	地下水(浅井戸)	塩素滅菌のみ	270 m ³ /日	
穴吹	小島	小島水源	地下水(深井戸)	塩素滅菌のみ	210 m ³ /日
	古宮	古宮水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	131 m ³ /日
	岩屋	岩屋水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	53 m ³ /日
	南部	南部水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	38 m ³ /日
	神明	大内水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	420 m ³ /日
		宮内水源	地下水(浅井戸)		
木屋平	川井	川井水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	82 m ³ /日
	三協	弓道水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	105 m ³ /日
		羽向谷水源	河川(表流水)		
	木屋平	太合水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	100 m ³ /日
	川上	川上水源	河川(表流水)	緩速ろ過・塩素滅菌	35 m ³ /日

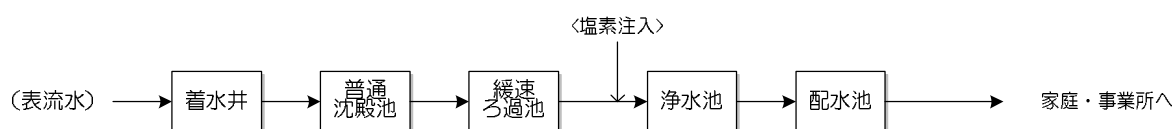


図 2-8 緩速ろ過池の浄水フロー(例)

(2) 配水池

簡易水道では、平成 22 年度末時点（ただし切久保簡易水道を含む）で合計 35 池の配水池を有しており、その総容量は 3,341m³となっています。

表 2-13 配水池数と配水池容量[簡易水道]

地区	事業名称	配水池数	配水池容量 (m ³)	地区	事業名称	配水池数	配水池容量 (m ³)	
美馬	切久保	2	132	木屋平	川井	2	138	
脇町	西部・別所	4	1,800		三協	3	140	
	清水	2	115		木屋平	1	88	
	中ノ谷	3	330		川上	1	60	
穴吹	小島	4	111		合計			35
	古宮	1	25					
	岩屋	1	21					
	南部	4	51					
	神明	7	330					

(3) 管路

簡易水道の平成 22 年度末時点（ただし切久保簡易水道を含む）の管路延長は、約 183km であり、その内訳は導水管が約 16.2km、送水管が約 27.7km、配水管が約 138.9km となっています。

管種別内訳を見ると、導水管では硬質塩化ビニル管が全体の約 64%を占めています。送水管ではダクタイル鋳鉄管の割合が約 63%、硬質塩化ビニル管の割合が約 36%となっています。配水管では、硬質塩化ビニル管が全体の約 86%を占めています。

表 2-14 管路延長[簡易水道]

地区別	導水管	送水管	配水管	計	管種別	導水管	送水管	配水管	計
切久保	150	4,620	23,726	28,496	【延長】				
西部・別所	0	5,428	33,142	38,570	ダクタイル鋳鉄管	980	17,336	5,402	23,718
清水	57	1,163	4,572	5,792	鋼管	669	406	1,148	2,223
中ノ谷	0	7,147	13,028	20,175	硬質塩化ビニル管	10,336	9,957	118,837	139,130
小島	0	1,045	10,064	11,109	その他	4,178	10	13,477	17,665
古宮	1,345	0	2,491	3,836	合計	16,163	27,709	138,864	182,736
岩屋	353	0	2,096	2,449					
南部	1,700	757	4,345	6,802	【構成比率】				
神明	5,031	7,383	19,679	32,093	ダクタイル鋳鉄管	6.1	62.6	3.9	13.0
川井	1,178	126	6,277	7,581	鋼管	4.1	1.5	0.8	1.2
三協	3,460	10	10,925	14,395	硬質塩化ビニル管	63.9	35.9	85.6	76.1
木屋平	2,850	20	3,401	6,271	その他	25.8	0.0	9.7	9.7
川上	39	10	5,118	5,167	合計	100	100	100	100
合計	16,163	27,709	138,864	182,736					

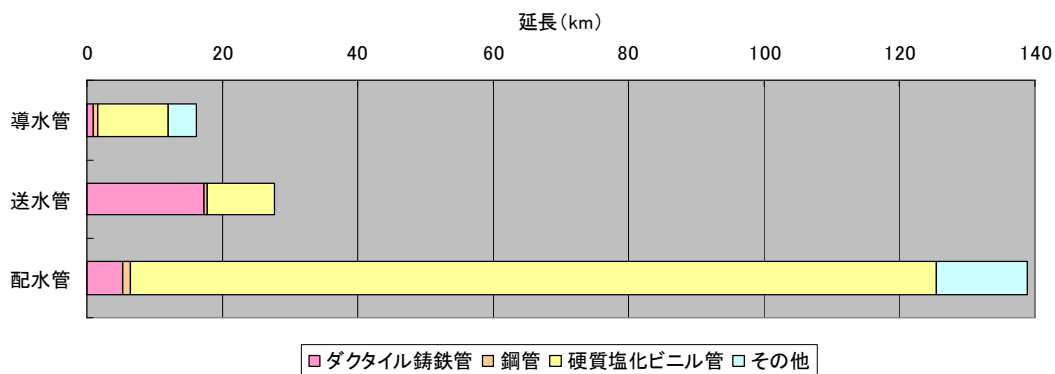


図 2-9 管種別延長[簡易水道]



図 2-10 水道施設の位置[簡易水道:美馬、脇町地区]



凡例	
	: 行政区域
	: 簡易水道
	: 水源
	: 浄水施設
	: 配水池

図 2-11 水道施設の位置[簡易水道:穴吹地区]

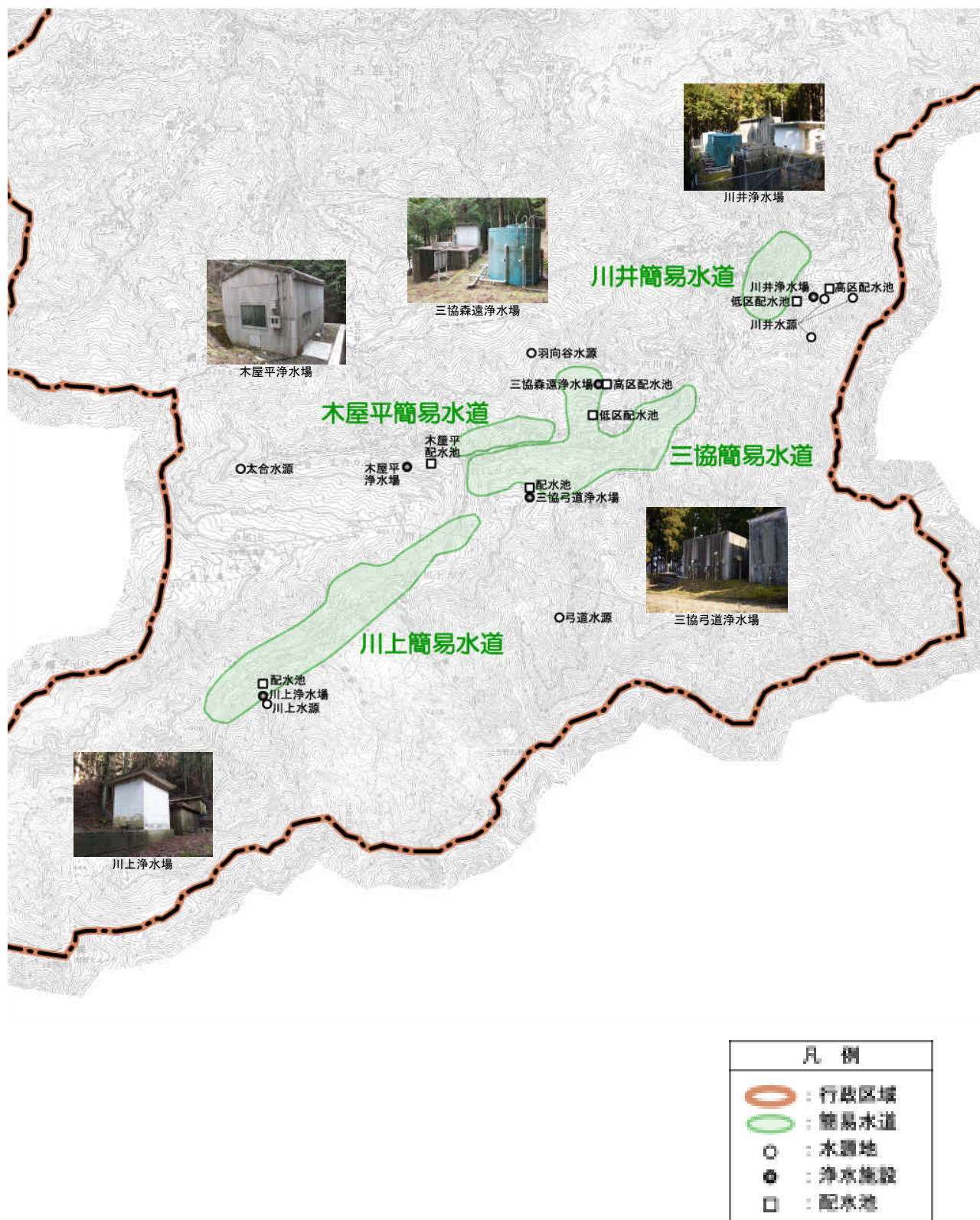


図 2-12 水道施設の位置[簡易水道:木屋平地区]